

望廬山瀑布

李白

廬山の瀑布を望む

漢詩鑑賞辞典

247頁参照

日照香爐生紫烟

日は香炉を照らして紫烟を生ず

遙看瀑布挂長川

遙かに看る瀑布の長川を挂くるを

飛流直下三千尺

飛流直下 三千尺

疑是銀河落九天

疑うらくは 是れ銀河の九天より落つるか

参考：唐詩鑑賞会 第9回講義

[6-1李白 \(xstv.jp\)](#)

飲酒 陶淵明

漢詩鑑賞辞典 49頁参照

結廬在人境

廬を結んで人境に在り

而無車馬喧

而も車馬の喧しき無し

問君何能爾

君に問う何ぞ能く爾るやと

心遠地自偏

心遠ければ地自から偏なり

采菊東籬下

菊を東籬の下に采り

悠然見南山

悠然として南山を見る

山氣日夕佳

山氣日夕に佳く

飛鳥相與還

飛鳥相与に還る

此中有真意

此の中に真意有り

欲辨已忘言

弁せんと欲すれば已に言を忘る

香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁 白樂天

香炉峰下、新たに山居を卜し、草堂初めて成り、偶たま東壁に題す

漢詩鑑賞辞典 499頁参照

香炉峰下、新たに山居を卜し、草堂初めて成り、偶たま東壁に題す

日高睡足猶慵起

日高く睡り足りて猶お起くるに慵し

小閣重衾不怕寒

小閣に衾を重ねて寒さを怕れず

遺愛寺鐘欹枕聽

遺愛寺の鐘は枕を欹てて聴き

香鑪峰雪撥簾看

香鑪峰の雪は簾を撥げて看る

匡廬便是逃名地

匡廬は便ち是れ名を逃るるの地

司馬仍爲送老官

司馬は仍お老いを送るの官為り

心泰身寧是歸處

心泰く身寧きは是れ歸する処

故鄉何獨在長安

故郷何ぞ独り長安のみに在らんや

参考：唐詩鑑賞会第23回講義

[2-3白居易 \(xstv.jp\)](#)